



わたしたちのねがい



●自宅から40分以内で
通える学校

地元の学校に通えず、1時間以上かけて通う子もいます。適正に整備され、自宅から40分以内で通える学校を。



●小学部・中学部・高等部がある
一貫した教育が受けられる学校

府内各地域に適正に学校があれば、12年間の一貫した教育を受けられるようになります。



●適正規模※150人～
200人の学校



適正規模の学校なら特別教室をつぶさず、ゆとりをもって勉強ができます。

※大阪府学校教育審議会(1992年12月)は、知的障がい支援学校の適正規模を150人～200人とする答申を出しています

この7年間で集約した署名

18万3908筆!

みなさんの署名が「3校整備」の実現へ

2018年から、大阪障害児教育運動連絡会は、府立支援学校の「過大・過密」による「教室転用」や、数合わせの「通学区域割の変更」、定員を超える「つめこみ」教室など、人権侵害ともいえる劣悪な学習環境の改善を求めて、府立支援学校の増設を求める請願署名のとりくみをはじめ、この7年間で18万3908筆の請願署名を府議会に届けました。

そしてわたしたちの運動により、2024年4月に府立出来島支援学校が開校し、さらに豊能地域・豊中市立第七中学校と大阪市北東部・府立茨田高校の2校の「施設等を活用した新校整備」をおこないます。そして、2024年度の新規事業として、交野支援学校四條畷校の本校化(小学部設置)が予算化しました。しかし、まだまだ学校増設が必要です。



ABCテレビニュース
公式チャンネル

ABCテレビ「ニュースおかえり」で大阪の知的障がい支援学校の実態について特集されました。



大障教ホームページからこれまでの支援学校増設運動の資料やリーフ、署名用紙をダウンロードできます。

文部科学省は、時限措置で支援学校建設に対する国庫補助の増額を打ち出しています。特別支援学校を設置する義務を負う大阪府に

「いまこそ支援学校の新校整備を!」の声を届けます。

「府内各地域に知的障がい支援学校の新校整備を求める請願」署名にご協力ください。

府内各地域に知的障がい支援学校の新校整備が必要です

障がいのある子どもたちに 当たり前な学習環境を!



障がいのある
子どもたちの笑顔が
あふれるのびのび
たのしい学校を
もっとつくりたい。

長谷川義典

大阪障害児教育運動連絡会

大阪の障害児教育をよくする会 大阪府立障害児学校教職員組合 大阪障害児・者を守る会 大阪教職員組合障害児教育部 障害者(児)を守る全大阪連絡協議会 全国障害者問題研究会大阪支部

【連絡先】〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町7-11-704 TEL: 06-6765-8904 大阪府立障害児学校教職員組合内 大阪の障害児教育をよくする会事務局

「過大・過密」「教室不足」
「長時間通学」解消に向けて

支援学校を抜本的に整備してください！

人権侵害ともいえる支援学校の実態

A 支援学校 約50年間使用しているプレハブ教室

一般的には30年から40年が耐用年数と言われている



知的障がい
支援学校では

特別教室
更衣室
教材室など

あらゆる場所を
普通教室に転用

「これ以上転用できる
部屋が無い!!」
「1学級の人数を増やして、
〈圧縮クラス〉に」
「老朽化したプレハブを使わないで」

B 支援学校 遊戯室を間仕切りして普通教室に転用



大きい部屋が間仕切りで2つの普通教室に転用され、小学部の遊戯室が足りない

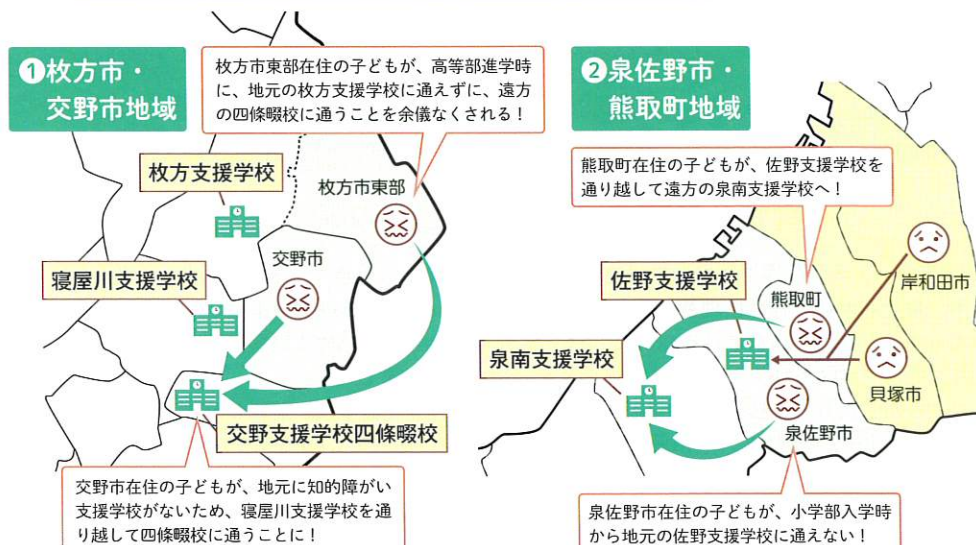
府内の支援学校の実態を
まとめた冊子(2022年作成)はコチラ



「数合わせ」のための「いびつな通学区域割」
生活圏・福祉圏域を無視し、長時間通学！
府内各地域いたるところで、起こっています!!

「小中高一貫教育が受けられない!」「同じ市内でも、支援学校は別々に…」

「高等部で友だちと離ればなれに…」「近い支援学校に行けず、1時間以上かけて通学」



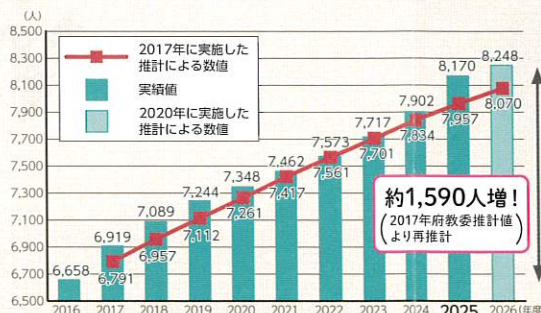
最低限の基準を満たしていない!!

2021年度に制定された「設置基準」(特別支援学校を設置するために必要な最低限度の基準)では、1学級の子どもの数、校舎・運動場の面積、備えるべき施設などの基準が定められています。

府立支援学校の半数以上の学校が「設置基準」を満たしていません。

文科省「公立特別支援学校教室不足調査」で大阪府は2021年度全国ワースト、2023年度全国ワースト2(「不足教室」370室)となり、深刻です。

増えつづける児童生徒数 (府立支援学校で学ぶ知的障がい児童生徒数)



保護者の声

●東大阪市在住の八尾支援学校の子どもは、児童生徒数の増加により、高等部に進学する時に、通学区域割で決められた支援学校に転学しなければなりません。環境の変化に対応することが苦手な子どもが多く、大きな負担になり、不登校や退学へ追い込まれる生徒もいます。小中高等部が設置された

12年間の一貫教育を受けることが出来る学校が欲しいです。

また、耐用年数を大幅に超えたプレハブ校舎を今も使い続け、その建物内にはトイレもありません。子どもが学校生活を送るうえで困った事、心配な事、制度や環境を変えないと解決しない問題ばかりですが、このままあきらめず改善を要望していきます。

今よりもっと、たくさんの子どもの笑顔があふれますように。